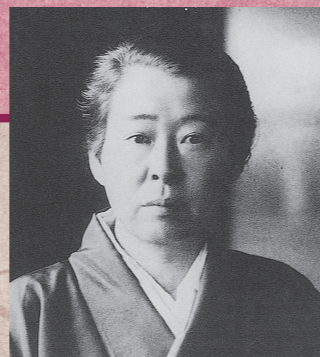


鹿児島にゆかりの女性たち

鹿児島高等実践女学校創設者

満田 ユイ
(1884~1932)



明治17(1884)年、鹿児島市照国神社の神官の娘として生まれた満田ユイは、明治37(1904)年に教師を目指して上京し、東京の渡辺裁縫学校に入学した。優秀な成績で卒業し、その後もしばらく母校に残ったが、父親の要望により帰鹿し、鹿児島女学館で教壇に立った。しかし、自分が理想とする教育方針とのギャップが大きかったため、失望した彼女は、自分で新しい学校を創設することを決意する。

そして、明治40(1907)年「実際に役に立つ教育」を理念として、鹿児島市平之町に鹿児島女子技芸講習所を創設した。翌41(1908)年、鹿児島女子技芸学校と改め、校舎を高麗町に移転し、鹿児島の女子教育の遅れを取

り戻そうと努めた。特に調理を教える割烹教室には力を入れた。当時最先端の設備を取り入れ、彼女はここで鹿児島の女学生に本格的な洋食の授業を行った。さらに、当時としては珍しかった洋裁などの技能教育に加え、英語教育も取り入れるなど、革新的な教育を進めていった。また、鹿児島では初めて、制服にセーラー服を取り入れるなど、最新の流行にも理解が深かった。

その後、「実技実践を重んずる」という理念のもと、校名を鹿児島高等実践女学校と改め、さらに昭和5(1930)年には鹿児島女子実践商業学校を開設し、鹿児島の女子教育の発展に多大なる貢献をした。

この言葉の意味を知っていますか？

男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会の形成を推進するうえで、法的根拠となる法律です。1999年6月に制定されました。前文で、男女共同参画社会の実現を21世紀のわが国社会を決定する最重要課題と位置づけ、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図ることが明確にされています。

エンパワーメント

政治、経済、社会、家庭などのあらゆる分野で、自分たちのことは自分たちで決め行動できるような能力を身につけること。またはその能力を引き出すこと。女性自身が企画や政策・方針決定の場に参画し、社会を変えていく力を身につけることとして、女性問題の取組みの中で重要視されています。

編集後記

最近、家事や育児に参加する父親が少しずつ増えてきています。そして、こうした男性の育児参加を支援するものとして、6月30日に、改正育児・介護休業法が施行されました。

しかしながら、共働き世帯が増加しているなかで、2009年度の男性の育児休暇取得率は1.72%で、家事や育児に関する意識の変化は、なかなか進んでいないのが現状です。それでも、「イクメン」という言葉に象徴されるように、社会の意識が変わりつつあるようにも思えます。

今回のフロントインタビューでは、夫婦は、家事や育児を行うチームであると紹介されています。固定観念にとらわれず、新しい家事や育児のあり方を考えてみられたらと思います。

すてっぷ 第31号

発行／鹿児島市市民局市民部男女共同参画推進課
〒890-0054 鹿児島市荒田1丁目4-1
電話:099(813)0852

制作／瀬上印刷株式会社

【表紙解説】

青空と街並は、将来の男女共同参画社会の実現を表し、虹に座っている親子3人は、夫婦が協力してのびやかに子どもを育てていることをイメージしています。

本冊子は、紙へのリサイクルに適した材料のみ用いて作成しています。

すてっぷ

vol.31

男女共同参画情報誌

[発行]鹿児島市男女共同参画推進課
平成22(2010)年10月



特集

男女共同参画と男性の家事・育児

フロントインタビュー

在福岡アメリカ領事館 前首席領事
マルゴ・キャリントンさん

夫婦とは家事・育児を行うチームです